

小林市文化財調査報告書 第2集

市内遺跡発掘調査報告書

2008年3月

宮崎県小林市教育委員会

序 文

この報告書は、小林市教育委員会が平成 19 年度に実施した試掘・確認調査の報告書です。

近年、小林市では開発事業等の増加により、開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。平成 4 年度から平成 5 年度にかけて市内の遺跡詳細分布調査を実施し、その結果、250 カ所以上の遺跡が確認されています。小林市教育委員会ではこの結果を受けて、開発区域内の遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところです。

本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層の御理解をいただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただきました関係諸機関並びに地権者の方々、また発掘調査に従事していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 20 年 3 月

小林市教育委員会

教育長 佐藤 勝美

例　　言

1 本書は、小林市教育委員会が平成19年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。

2 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 小林市教育委員会

教育長 佐藤 勝美

社会教育課長 堀 英博

文化財係長 天城 より子

調査事務担当 山本 百合香

調査担当 増谷 理絵

落合 賢一

発掘作業員

3 本書の執筆及び編集は増谷理絵が行った。

4 本書に利用する位置図は国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の50,000分の1地形図を複製したものを使用している。

本　文　目　次

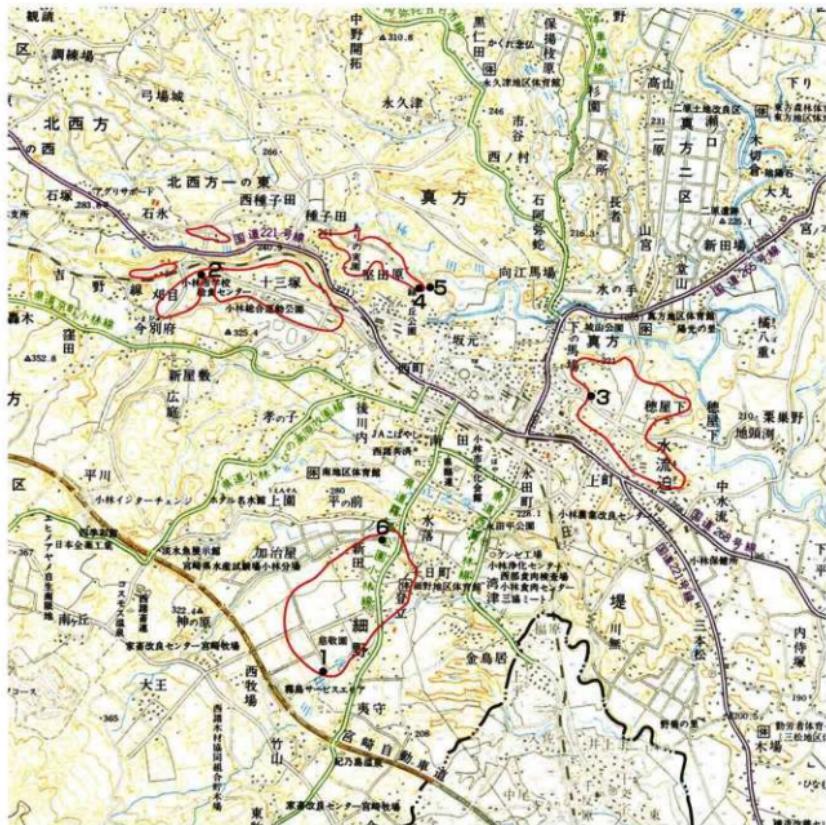
◆調査の記録	1
1 東宮ノ原地区	2
2 杉玉地区	2
3 小林原地区	3
4 内屋敷地区	3

挿　図　目　次

第1図 調査の位置図および周辺地形図	1
--------------------------	---

◆調査の記録

近年、小林市では開発事業等の増加により、各種開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっている。今年度は開発事業の予定されている東宮ノ原地区、杉玉地区、小林原地区、内屋敷地区の計4地区で試掘確認調査を行い、遺構・遺物の有無について調査した。



第1図 調査の位置図および周辺地形図

- 1 東宮ノ原地区
- 2 杉玉地区
- 3 小林原地区
- 4 内屋敷地区
- 5 内屋敷遺跡
- 6 水落遺跡

() は周知の埋蔵文化財包蔵地

1 東宮ノ原地区（小林市大字細野字東宮ノ原）

〔遺跡の位置と環境〕

調査地は夷守岳北東部の標高 235m前後の丘陵地上にあり、遺跡の南北には小河川が流れている。

また、調査地に近い北東地域には平成元年度に本発掘調査が行われた「水落遺跡」が所在し、縄文・弥生・中世・近世の遺構や遺物が出土している。

〔調査に至る経緯〕

東宮ノ原地区では携帯電話基地局建設工事が計画されていた。市教育委員会では埋蔵文化財の有無についての照会を受けて確認したところ、計画予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地「登立遺跡群」に含まれていた。そこで双方で協議した結果、予定地内で遺跡の有無を確かめるため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

計画予定地内に計 3 箇所のトレンチを設け、地表面から約 1.7mほど掘削した。その結果、黒ボク土層およびその下層の褐色土層からごく少量の土器片が出土したが、土層の堆積状況は混じりが強く、遺物も時期を特定できるものではなかった。また、遺構は出土しなかった。

2 杉玉地区（小林市大字南西方字杉玉）

〔遺跡の位置と環境〕

調査地は市内南西部に位置し、標高約 265～270m前後の丘陵地にある。東南側には小林総合運動公園があり、北側には石冰川が西から東へ向かって流れている。『小林市史 第一巻』には石冰川の南二町余りのところに、永禄年間に伊東氏が設けたと思われる壘（竜ヶ峯壘址）があると記載されており、調査地周辺地域が該当すると思われる。また、周辺には刈目遺跡や石冰遺跡など、弥生時代の遺物散布地が分布している。

〔調査に至る経緯〕

杉玉地区では市建設課による道路改良工事が予定されていた。計画予定地内は周知の埋蔵文化財包蔵地「十三塚遺跡群」の範囲内に入っており、縄文～弥生時代の遺物散布地として認識されていたため、市建設課と市教育委員会で埋蔵文化財の取

扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を確認するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地内に 10 箇所のトレンチを設け、地表面から約 0.5~1.5m程度掘削した。上層が大きく削平されており、大部分のトレンチでアカホヤ火山灰層あるいは牛の脛火山灰層からの調査となった。その結果、縄文時代早期遺物が数点出土した。また、搅乱層より磁器片数点が出土したが、遺構は確認されなかった。

3 小林原地区（小林市大字真方字北小林原）

〔遺跡の位置と環境〕

調査地は市東南部に位置し、標高約 210m 前後の台地上にある。北側には戦国期に伊東氏によって築かれた小林城跡があり、さらにその北側には城跡を取り巻くように石水川が流れている。調査地が所在する小林原遺跡群は縄文・弥生・近世の遺物散布地として認識されているが、現在では包蔵地内一帯に多くの住宅が建てられている地域となっている。

〔調査に至る経緯〕

小林原地区では市都市計画課による道路改良工事が計画されていた。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「小林原遺跡群」の中に所在していたため、市都市計画課と市教育委員会で埋蔵文化財の取扱について協議した結果、工事着手前に遺跡の有無を確認するための確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

工事予定地内に 2 箇所のトレンチを設け、地表面から約 1.1m~1.4m ほど掘削を行った。その結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

4 内屋敷地区（小林市大字真方字内屋敷）

〔遺跡の位置と環境〕

調査地は市のほぼ中央部に位置する。標高約 210m の台地上にあるが、地権者の話によると以前は山であったところを削って畑地としているということだった。北

側には石冰川の支流である種子田川が流れ、南は石冰川が西から東へと向かって流れている。

調査地東側には、平成8~9年度に宮崎県教育委員会により本発掘調査が行われた「内屋敷遺跡」が所在し、縄文早期～中世の遺構・遺物が数多く出土した。

〔調査に至る経緯〕

内屋敷地区では、市生活環境課による墓地造成工事が計画されている。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「種子田遺跡群」に含まれており、市生活環境課と市教育委員会との協議の結果、工事施工前に遺跡の有無を確認するため、確認調査を実施することになった。

〔調査の概要〕

調査地に4箇所のトレンチを設定して掘削したところ、攪乱層から2点の磁器小片が出土した。上層の残存状況は比較的良好で、黒ボク土層も確認されたが、包含層からは遺構・遺物は出土しなかった。

《引用・参考文献》

『小林市史 第一巻』 小林市 1993

『小林市文化財調査報告書第7集 市内遺跡詳細分布調査報告書』 小林市 1994

『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第14集 内屋敷遺跡』

宮崎県埋蔵文化財センター 1999

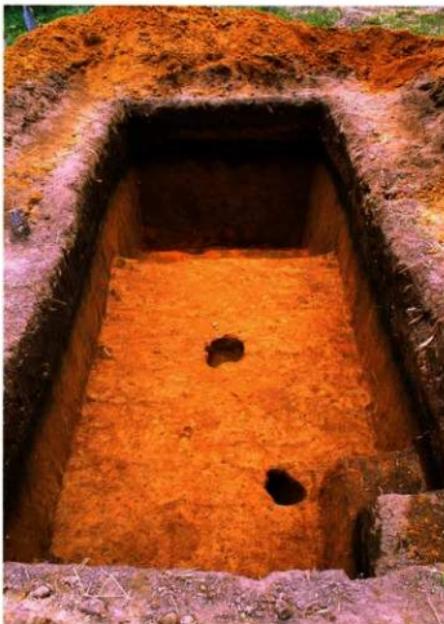
『小林市文化財調査報告書第5集 水落遺跡』 小林市教育委員会 1992

図版

図版 1



東宮ノ原地区 調査前



東宮ノ原地区 挖削状況

図版2



杉玉地区 調査前



杉玉地区 挖削状況



小林原地区 作業状況

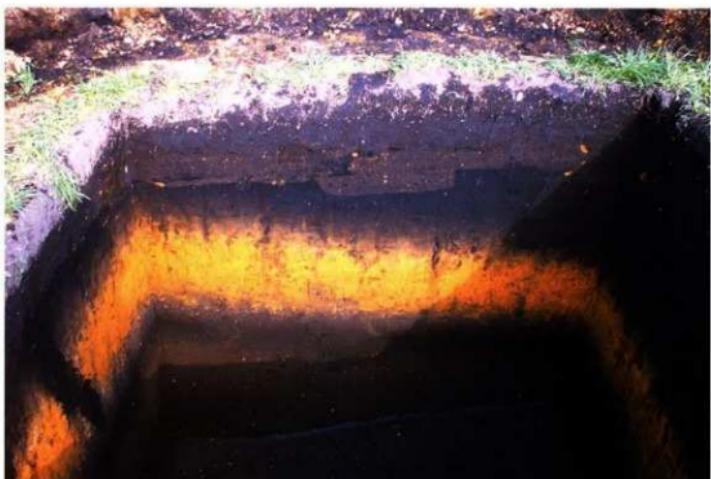


小林原地区 挖削状況

図版 4



内屋敷地区 調査前



内屋敷地区 挖削状況

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	小林市文化財調査報告書（新小林市）
シリーズ番号	第2集
編著者名	増谷 理絵
所在地	宮崎県小林市大字細野300番地
発行年月日	2008年3月31日

調査地区名	所在地	調査期間	調査面積	出土遺構	出土遺物	調査要因
東宮ノ原地区	小林市大字細野字東宮ノ原	H19.4.16 ～4.17	16m ²	なし	土器片	携帯電話 基地局建設
杉玉地区	小林市大字南西方字杉玉	H19.7.5 ～7.19	25m ²	なし	土器片 磁器片 黒曜石	道路改良工事
小林原地区	小林市大字真方字北小林原	H19.7.18	4.6m ²	なし	なし	道路改良工事
内屋敷地区	小林市大字真方字内屋敷	H20.2.5 ～2.7	20m ²	なし	磁器片	墓地造成工事

小林市文化財調査報告書第2集
市内遺跡発掘調査報告書

平成 20年 3月

編集・発行 宮崎県小林市教育委員会
印 刷 宮崎県小林市大字細野300番地
こぞの印刷

